

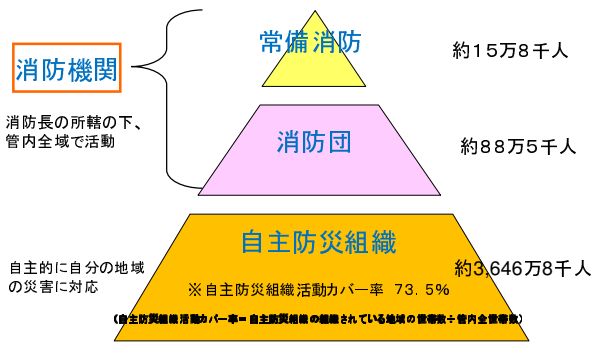
# 自主防災組織連絡協議会の設置に向けて

総務省消防庁 国民保護・防災部  
防災課 課長補佐  
荒山 豊

## 一 概要

- 1 自主防災組織
  - ・ 地域の防災体制(平成21年4月1日現在)
  - ・ 地域防災の三本柱
  - ・ 大規模災害に備えた住民による防災活動
  - ・ 自主防災組織とは
  - ・ 自主防災組織の推移
  - ・ 自主防災組織の手引
- 2 自主防災組織連絡協議会
  - ・ 自主防災組織連絡協議会とは
  - ・ さまざまな防災機関との連携
  - ・ 連絡協議会ができること
  - ・ 埼玉県三郷市の事例
  - ・ 和歌山県那智勝浦町の事例

## 地域の防災体制(平成21年4月1日現在)



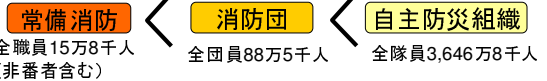
## 地域防災の三本柱

### 災害対応能力



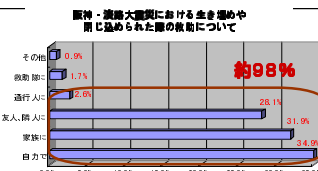
- 常備消防: 住民への権限、高度な訓練、装備
- 消防団: 住民への権限、一定の訓練、装備
- 自主防災組織: 最小限の訓練、装備

### 動員力



相互補完することが地域防災の要点

## 大規模災害に備えた住民による防災活動

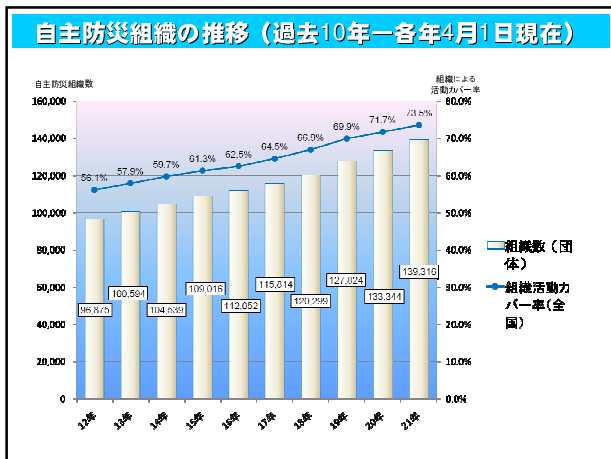


出典:河田善昭「大規模地震災害による人的被害の予測」自然災害科学 Vol.16, No.1, pp.2-14, 1997

## 自主防災組織とは

- 地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識に基づき自主的に結成し、自発的な防災活動を行っている組織
  - 災害対策基本法では「住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織」と定義されている
- 主に町内会・自治会等の規模で設置・運営されており、組織の隊員はその地域に住んでいる住民(平成21年4月1日現在、組織数139,316団体、隊員数は約3,647万人)
- 大規模災害時に行政機関による救助が困難な場合、自主防災組織による自助・共助が非常に重要である



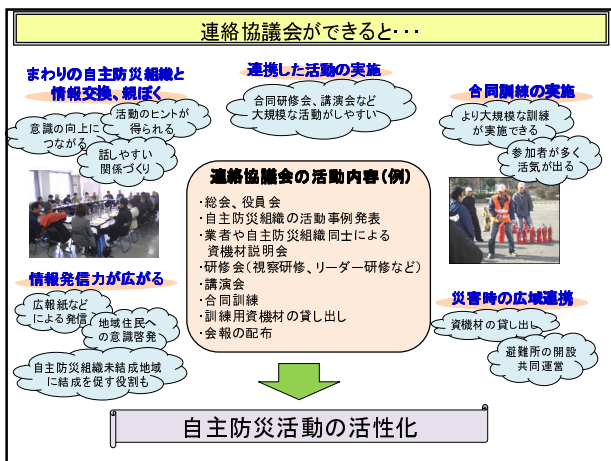
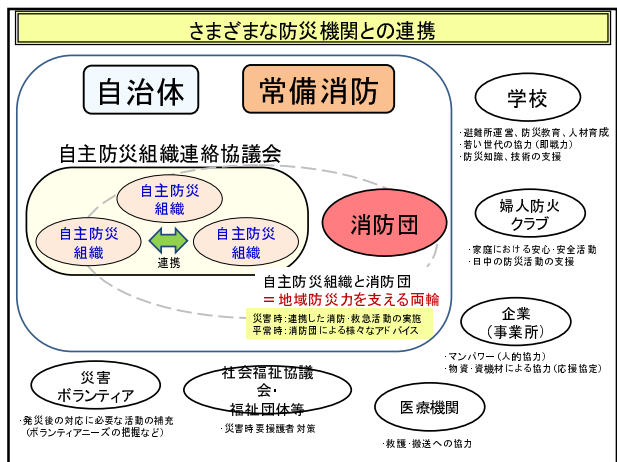
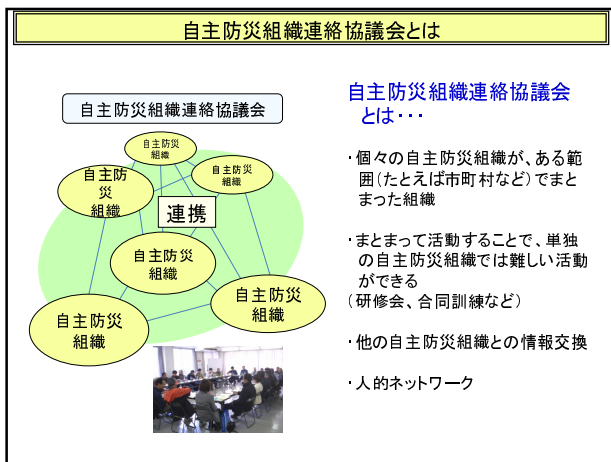


### 自主防災組織の手引

([http://www.fdma.go.jp/html/life/jisyub/ousai/hp/pdf/tebiki\\_0703.pdf](http://www.fdma.go.jp/html/life/jisyub/ousai/hp/pdf/tebiki_0703.pdf))

### 自主防災組織教育指導者用教本・住民用教本

(<http://www.fdma.go.jp/general/life/kyohon/index.html>)



### 埼玉県三郷市の事例(1)

自主防災組織が抱えていた課題

- 自主防災組織数の増加**  
- 消防署による訓練指導の限界
- 個別組織による活動の限界**  
- まとまって活動を実施したい
- 情報交換の機会がない**  
- まわりの自主防災組織の活動内容を知りたい  
- 防災資機材の購入は各自主防災組織の判断

**平成9年3月 連絡協議会設置**

三郷市の概要	
総人口	131,798人(H21.10.1現在)
面積	30.41km <sup>2</sup>
東京のベットタウン ・昔から存在する集落と、大規模な集合団地の両面をあわせ持つ	
江戸川と中川に挟まれ、低平で市内にほとんど高低差が無い	
・内水が多い	
・カスリーン台風による水害を経験	
関東大震災を記録	
三郷市の自主防災組織	
自主防災組織数	121(H21.10現在)
平成9年3月 連絡協議会設置(当時の自主防災組織数は72)	
市内を7ブロックに分割(設立当時は6ブロック)	

### 埼玉県三郷市の事例(2)

連絡協議会設置で・・・

**情報交換・親ばくの場ができた**

- ・総会(事前研修も実施)
- ・ブロック会議

**活動のヒントを共有**

- ・意識の向上
- ・話しやすい関係づくり

**情報発信がしやすい**

- ・会報の配布(年1回、市内全世帯)

**活動に対する理解向上**

- ・自主防災組織未結成の地域に結成を促す

**協調した活動がしやすくなった**

- ・ブロック合同訓練
- ・研修会、講演会

**大規模な活動を実施**

- ・活気のある訓練

**取り組みが広がっていった**

- ・指導者養成講座(年3回) 11名～20名の参加者
- ・指導者ネットワーク(要員講習終了者が指導者となる)

**連絡協議会自体が進捗力を持つようになった**

**自主防災組織活動の活性化**

### 埼玉県三郷市の事例(3)

三郷市の工夫

**自主防災組織と市の信頼関係**

「連絡協議会の設立が必要」という考えを、市職員と自主防災組織が共有

自主防災組織と市職員との関係構築

**主体的な活動への進化**

最初は行政が主導して自主防災組織の活動を推進、形だけではありません作ってみたい(褒め、役員、総会)

研修会やイベントなど、**全自主防災組織が参加することで自分たちでいう機能が生まれる**

自主防災組織、連絡協議会による**自主的な活動へと進化**

一行政はしっかりと後方支援

**ブロック構成**

三郷市には121の自主防災組織がある(平成21年10月現在)

一訓練や災害時に特に協力しあえる区域で、より密接なつながりを持つことが望ましい

**三郷市を地域等に応じてブロックに分け、ブロックでの各種活動を実施**

合同訓練、ブロック総会 など

**役員を選出方法**

ブロックごとに役員を選出

それぞれのブロックから原則2名が連絡協議会の役員に選出される

連絡協議会の役員は、自主防災組織の会長でないこともある

一ブロックの自主性

「連絡協議会の設立が必要」という強い信念のもと、市職員が強力に推進

一町会に自ら出たいが説明 休日・夜間開催なし

**連絡協議会の予算**


【収入】

- ・自主防災組織からの会費
- ・三郷市より運営費補助

【支出】



- ・連絡協議会としての活動
- ・ブロックごとの活動

※市と共催で実施する事業もある



### 三郷市自主防災組織連絡協議会 会報「みさと自主防災報」

- ・年1回発行
- ・市内全世帯に配布

『みんなの力が地域を守ります！』  
大地震はいつ発生してもおかしくありません。被害を軽減できるように防災力を高めましょう。

### 和歌山県那智勝浦町の事例(1)

**災害の危険性が高く、災害に対する意識が高い土地柄**

- 一全国的に見ても降雨量が極めて多い。年間4,000mmを超える地域も。
- 一急峻な谷間の河川沿いに集落があり、**河川の氾濫、浸水、土砂災害**が発生しやすい
- 一平成13年、太田川・那智川で**大きな被害**を受けた
- 一東南海地震により、激しい揺れによる被害のほか、**5mを超える津波**が発生するおそれがある
- 一人口の約30%が65歳以上の**高齢者**。特に**山村部の人口減少**が深刻

**那智勝浦町の概要**


人口 17,141人(H21.10.1推計)  
面積 183.45km<sup>2</sup>

- ・紀伊半島の南東端、太平洋に面する
- ・町域の90%が山地・丘陵地
- ・人口減少、高齢化が進んでいる

**那智勝浦町の自主防災組織**

平成10年 5組織でスタート  
一現在の組織数 **33組織**  
(活動力バー率 約98.2%)

平成17年9月 連絡協議会設立



### 和歌山県那智勝浦町の事例(2)

平成17年9月 連絡協議会設立

**情報交換の場ができた**

**協議会(年3回)**

- ・各自主防災組織の取組状況
- ・災害時要援護者対策の進め方など

**まとまった活動が可能に**

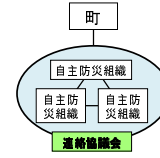
**視察研修**

- ・連絡協議会委員の研修
- ・今年度は県施設の視察を実施

**防災意識の広がり**

**合同研修会**

- ・広く一般の方を対象とした研修



### 和歌山県那智勝浦町の事例(3)

那智勝浦町の工夫・特徴

**役員を選出方法**

連絡協議会の会長は、自主防災組織の会長と兼務しない

一自主防災組織の会長は、それだけで忙しい

自主防災組織の防災委員が、連絡協議会会長を務める

**災害に対する意識が高い**

→組織ごとに積極的に参加

・各種災害に対する意識、危機感が高い

一地震・津波による災害危険性が認識されている

一風水害の既往歴があり、危険性を認識

まっかけをやることにより、積極的に参加してくれる

**行任せにしない**

全て町任せにすると、「やらされている」という意識から抜け出せない

イベントの企画原案は町が作成し、**その案を連絡協議会で協議して実施内容を決定**

一全て町に任せるとは、連絡協議会として判断する過程を取り入れる

**災害に対する意識を普段から持ってもらうことが重要**

**那智勝浦町 防災スローガン**

防災は3つの柱を基本に進める。

- 一自分の命は自分で守る
- 一自分達の命は自分たちで守る
- 一自分から身近なところの付き合いを大切に

**予算**

- 自主防災組織
  - ・那智勝浦町の助成制度(資機材整備、活動費用)
- 連絡協議会
  - ・会費は徴収していない
  - ・研修会を含め、町の予算で運営

**連絡協議会の課題**

- ・会費には50名以上が参加するため、意見の集約が大変
- ・組織によって温度差がある
- ・町域が広く、災害の態様も様々なことから、分会の設置を検討
- ・後発の自主防災組織に対する資機材の整備(先発の組織との差)

# 和歌山県那智勝浦町 自主防災組織による津波避難対策

## 自主防災組織が中心となって津波避難対策を実施

### 住民が協力して避難路を整備



津波避難場所への経路に、手作りの手すりを取り付け



北浜区自主防災組織では、各組が年に3回避難路の草刈り作業を行う

### 津波避難訓練では要援護者支援の訓練も



車いすの方への避難支援訓練。実際に津波が来れば、津波避難場所への階段を大急ぎで上らなければならない



津波避難訓練の様子



各組が自分たちで決めた避難場所に避難